

皆満寺通信

第11号 報恩講特集

法語

いま、ここ。それが自分の生きる場所。
今ここを自分の本当の居場所に出来なければ、
どこへ行っても同じなんだと気付かされた。

同朋会館の掲示板より

Mr.Chidren のAnyという歌に同じような歌詞があります。自分を向こうに置いて見てしまい、見失って、いま、ここを否定する。それが自分たちの常かもしれません。しかし、そこが探していたもの、望んだものと違っていったって、間違いじゃない。きっと答えは一つじゃないと僕も思います。 住職

報恩講勤修

報恩講を勤めることが
真宗門徒にとって何よりも大切なことです。

報恩講

期日 平成24年11月13日(火)～14(水)
時刻 両日とも、午前10時～と午後1時～
法話 善慶寺住職 住田 昭信 師
節談説教 善重寺副住職 大橋 侑司 師
《大逮夜法要後に 御伝鈔拝読と節談説教》

七百年という長い間、私たちの先人たちは「ほんこさん」と親しく呼んで、宗祖親鸞聖人のご恩徳に報謝の念を表す「報恩講」をお勤め続けてまいりました。

いよいよ今年も、その「報恩講」をお迎えいたします。報恩講は寺が、ましてや坊主が勤めるものではありません。坊主も門徒も一真宗門徒として親鸞聖人の御前に座し、聖人の言葉を聴聞するのが報恩講です。報恩講を勤めること、それが真宗門徒の証です。

まだ、一度もお参りいただけていないご門徒もおられると思います。様々なご事情によりお参りいただけない方も大勢いらっしゃると思いますが、ぜひ、報恩講の円成にお力添えのほど、宜しくお願いたします。

報恩講懇志のお願い

報恩講志のみでの報恩講執行を目指して

報恩講は寺が単独で思うがままに勝手に執り行うお仏事であってはなりません。寺が僧俗一体となってお勤めしなければならない年間で最も重要な法要です。

報恩講は以前から寺に組織されている講・組のご門徒(皆満寺同行)によって運営されており、同行で捻出された報恩講志と当日ご参詣いただいたご門徒による御堂志で賄われておりました。本来願われている寺を挙げてという形にはなかなか叶いませんでした。そこで、全ご門徒へ改めて報恩講志を御依頼申し上げ、報恩講をお勤めしていきたいと思っております。ご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

報恩講志 お一人2,000円以上
納入方法 振込用紙にてお振り込みいただくか直接寺へお届け下さい。(当日受付でもお納めいただけます)
※講・組所属のご門徒は例年通り役員さんに、講・組で取り纏めいただきます。

郵便振替口座番号 00860-9-6231
加入者名 皆満寺
(手数料は当方で負担します)

報恩講の諸準備へのご協力を

今年も9日より準備を始め、皆満寺同行(講・組所属のご門徒)を中心にお取り持ちいただきます。

お同行以外でお力添えいただけるご門徒のご参加をお待ちしています。自分たちの手で報恩講を作り上げましょう。(ご参加いただける方、お寺までご一報下さい)

期日	日程	内容
11月9日	諸準備	寺内の諸準備中心。
11月10日	諸準備	立華、狂巖準備。清掃。
11月11日	諸準備	立華、狂巖。清掃。
11月12日	諸準備	清掃、総点検。

11月13日(火) 午前10時~「初日中」法曹

登高座、「表白」
 文類偈 草四句目下
 念仏讃 淘五
 和讃 生死の苦海ほとりなし 次第4首
 回 向 願以此功德
 お 文
 「法話」 住田昭信 師

正午 《お 齋》 引き続き午後もお参り下さい

午後 1 時~「大違夜」《同朋唱和》

正信偈 真四句目下
 念仏讃 淘五
 和讃 五十六億七千万 次第6首 五遍反
 回 向 願以此功德
 「御俗姓」
 「法 話」 住田昭信 師

午後3時— 暫く休憩 —

午後3時半 「御伝鈔」 拝読 浅野信暁
 「節談説教」 大橋侑司 師

午後4時半 終了

11月14日(水) 午前10時~「満日中」

登高座 「歎徳文」
 文類偈 草四句目下
 念仏讃 淘五
 和讃 三朝浄土の大師等 次第3首
 回 向 願以此功德
 お 文
 「法話」 住田昭信 師

正午 《お 齋》引き続き午後もお参り下さい

午後 1 時~「^みお濃い」《同朋唱和》

正信偈 草四句目下
 念仏讃 淘三
 和讃 弥陀成仏のこのかたは 次第6首
 回 向 願以此功德
 お文

午後3時 終了

※法要の初めに真宗宗歌、終わりに恩徳讃を唱和します。

近くの寺院の報恩講

寺にはそれぞれ、独自の雰囲気があります。お詣りなさってその雰囲気に触れてみては如何でしょうか？

浄仙寺	(美浜町 布土)	11月3日
光蓮寺	(半田市 岩滑中町)	11月10日~11日
清勝寺	(武豊町 富貴)	11月16日
無量壽寺	(半田市 成岩本町)	11月18日~20日
順正寺	(半田市 堀崎町)	12月1日~2日
浄土寺	(半田市 栄町)	12月3日~4日
雲觀寺	(半田市 中村町)	12月6日~7日
雲澤寺	(半田市 協和町)	12月11日~12日

迷いか5目覚めへ

人間は自分本意にものごとを考え、行動する厄介な存在です。そんな人間は、視野の狭い、独善的な自信家です。本当のものが見えていない、まさに迷いの只中に身を置く哀れな存在に他なりません。そんな人間より、廣い視野をもって柔軟に事に関わる事のできる人間として生きるほうが好ましいにきまっています。

親鸞さまは、人間の迷いの根本原因を無明(=無知)の煩惱に見出し、それを具体的には自力への偏執とみておられます。

宗祖は、「自力というのは、わがみをたのみ、わがこころをたのみ、わがちからをはげみ、わがさまざまの善根をたのみひとなり」と仰います。我を頼り切ることのできるものと考えて、人それぞれがよいと考える善行を一生懸命にやり遂げようとする心掛ける態度こそ自力の態度であるというのです。その自力の人は、考え抜いた、やり遂げた、欠けたところなしと思ひ込む人たちです。この姿はまさに迷いの究極の姿に他なりません。

その迷いからの一刻も早い脱却は、宗祖においては、阿弥陀仏の智慧が教え示す、自力は棄てられるべしとの理をしっかり受け止める態度の確立によってのみ叶え

られるのだと考えておられます。唯信鈔文意に「回心というは、自力の心をひるがえし、すつるをいうなり」とあるとおりです。

ここに云われる回心は阿弥陀仏に促されて起こる衆生の心の転換であります。佛のお心に従う他力に立つ他に迷いの転換はありません。弥陀の智慧によって迷いを迷いのままに引き受けていくのです。その佛智に即くことこそたいせつであります。(前住記)

書いて学ぶ 親鸞聖人のことば 正信偈 開催中



第一回講座の様子

途中参加いただけますので、ぜひお越し下さい

第五回 11月 1日(木) 第六回 12月6日(木)

第七回 2月 7日(木) 第八回 3月7日(木)

参加費 500円(テキスト代)

持ち物 念珠 筆記具

被災地への飲料水支援のご報告

宗派の災害支援センターから福島を中心とした「飲料水の支援」の呼びかけがありました。そこで名古屋教区第二組(知多半島内の真宗寺院三ヶ寺)として被災地へ飲料水の支援をいたしました。

全ご門徒への通知は間に合いませんでしたが、本堂に支援金箱を設置して5月から7月にかけて支援金を募らせていただいたところ、24,000円集めることができ、当寺からの支援金という形で出すことが出来ました。この場をお借りして改めてご報告申し上げます。有り難うございました。(なお、二組として420,890円集まり、福

島県下の仮設住宅等へペットボトル(1リットル)2,160本届けることが出来ました。)

なお、福島県内は収束宣言とはほど遠いのが現実であることが、名古屋教区内有志のボランティアネットの会より報告を受けています。今後も支援活動は継続していきたいと思っておりますので、その節はご協力の程、宜しくお願いします。

境内工事の案内

現在、庫裏玄関の左側のところに車いす用のスロープを設置中です。かなり大がかりな工事ですが、10月末には完工の予定です。本堂正面よりは本堂へお越し頂くのが楽になりそうですが、本堂までは数段の階段は残りますので、今後はそれをどう解消するかが課題です。



庫裏玄関より法中玄関を臨む
法中玄関の右側に入出口を増設します

さらに、報恩講後に、庫裏の増築工事を行います。3月までには完工の予定です。工事中、ご迷惑をおかけしますが、何卒ご配慮の程よろしくお願ひいたします。

宗祖聖人御真影への暇乞い

度々誘われながらも、体が不自由なため叶わなかった本山参拝への願ひが娘夫妻の心遣いによって果たされました。恐らく今生最後の上山であろうと宗祖親鸞聖人にお暇乞いを願ひ出ました。凜とした御真影の眼差しが「よう参られたな」と私に注がれ、感極まって暫し合掌し、眼に御真影を焼き付け「お暇乞いに参上致しました」と申し上げたことであります。今生の別れとなるか

と思うと辛く涙さえ込み上げ、また、肩の荷が降り、ほっとした思いにも駆られました。これが最後かと後ろ髪を引かれる思いで振り返りつつ本願寺を後にしました。

(前住記)

涯を通して、私に目覚めよ、という促しを、続け下さっている諸仏さまです。ご法事は諸仏さまへのお礼報謝のお仏事です。

※土、日のご法事のご予約はお早めにご連絡下さい。

※HPのWEB忌日表もご活用下さい。

(ご命日を入力して、年忌年をご確認いただけます)

平成25年度 主な法要と行事(予定)

法要・行事	月 日・時刻
修正会	1月 1日 a.m.10:00~
春の彼岸会	3月 20日 a.m.10:00~
花祭り・初まいり	4月 20日 a.m.10:00~
永代経	6月 8日 a.m.10:00~
盂蘭盆会	8月 13日~15日
秋の彼岸会	9月 23日 a.m.10:00~
納骨総経	10月 12日 a.m.10:00~
報恩講	11月 13日~14日
除夜の鐘	12月 31日 p.m.11:40~
お勤めの稽古	随時 (改めてご案内)
書いて学ぶ 親鸞聖人の言葉	2、3、5、7、9、10、11月 第2木曜午後2時半~4時

※真宗本願奉仕団や

本願・祖廟収骨バス団参なども計画中です。

除夜の鐘・修正会の案内

恒例の除夜の鐘を今年も23時40分頃から行います。お越し下さった全ての方に撞いていただけます。是非お参り下さい。(午前0時過ぎより本堂内でのお勤めもごさいます。)また、翌1月1日午前10時より修正会法要をお勤め致します。こちらへも是非お参り下さい。

ご本山への収骨バスについて

今秋に行うべく準備を進めていましたご本山へのバスでの収骨団体参拝ですが、諸般の事情により延期致しました。来年の秋に仕切り直したいと思えます。なお、収骨証等のお手続きですが、来年の7月以降にさせていただきたいと思えます。詳細が決まり次第、皆満寺通信紙上でお知らせいたします。

平成25年度 年忌法要表

何が人間を本当に目覚めさせるのか
何が人間をいよいよ眠らせていくものなのか

年忌法要	還浄年
1 周 忌	平成24年
3 回 忌	平成23年
7 回 忌	平成19年
13 回 忌	平成13年
17 回 忌	平成09年
(23 回 忌)	平成03年
25 回 忌	平成 元年
(27 回 忌)	昭和62年
33 回 忌	昭和56年
(37 回 忌)	昭和52年
50 回 忌	昭和39年

※()は慣例により行う場合があります

「年忌法要」とは、お経を読んでもらうことで、亡き方を慰めたり、鎮めるたりすることでも、福を招き、災いを除こうとするのでもありません。亡くなった方は、全生

【後書き 「壽則多辱」】

歳も重ね、病との付き合いも10年に及びますが、偶々「壽則多辱」(歳をとれば辱が多い)という言葉に出会い、今の私のことを言い当てていると愕然としました。それでもなお、生かされていることの尊さを有り難く受け止めております。たとい恥多き一生であっても。映画監督の新藤兼人氏の言葉を借りて「わたしは、今、生きている、この一秒を、この十分を、この一日を生々と生きている」と命終わるまで言い続けたい。(前住記)

皆満寺通信 第11号

2012年10月15日発行

〒470-2339

愛知県知多郡武豊町守下門137

真宗大谷派 皆満寺

TEL 0569-72-0435

FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail info@kaimanji.or.jp